

2019年第1期1課 パトモスからの福音 1月5日

A 啓示 黙示録 1:1-3

❖ 誰が：イエスキリスト 1:1a

- 書の題は「現わす」「発見する」「覆いを取り除く」ことを意味しており、黙示録の中でイエスキリストは彼自身と将来を明らかにします。
- イエス様は書の中心的な主人公として全体に存在しています。

❖ 何故：将来起ころうとすることを明らかにするため 1:1b

- 神様は黙示録の中に何を示されましたか？何故？
 - (1) 神様がこの世界の全ての出来事を支配しておられることを理解するため
 - (2) 困難な時にあっても、神様が共におられることを私たちが確信することが出来るため
 - (3) 私たちが主の再臨に備えることが出来るため
 - (4) 私たちが神様に依存していることを意識して神様に従うため
 - (5) そう私たちが信じるため「今わたしは、そのことが起らない先にあなたがたに語った。それは、事が起った時にあなたがたが信じるためである。」（ヨハネ 14：29）

❖ どのように：象徴を用いて 1:1c

- 「伝えられものである」と訳されているギリシャ語—*sēmainō*—は「象徴を用いて説明する」ことを意味しています。
- 私たちが聖書を学ぶとき、象徴的な意味のない限り、私たちは文章の字義通りの意味を求めるべきです。
- 一方黙示録では、明らかな字義どおりの意味のない限り、私たちは象徴的な意味を求めるべきなのです。

❖ 恩恵：祝福されるため 1:3

- その当時、地方の教会が手紙を受け取った時、一人の代表者が会衆 全ての前でその手紙を読みました。
- 黙示録の7つの祝福のうちの最初はクリスチャン生活の3つの側面に関わっています。
 - (1) 読むこと：イエスキリストの啓示を分かちあう
 - (2) 聞くこと：イエスキリストの啓示を学ぶ
 - (3) 守ること：イエスキリストの啓示の指示に従う

B 著者、神様からの挨拶 黙示録 1:4-6

❖ ヨハネは、パウロとペテロの挨拶がしたのと同様に、真の著者と恵みと平和への望みを共有しています。（ローマ 1:7; エペソ 1:2, 1 ペテロ 1:2）

- 父：「わたしは、有って有るもの」（出エジプト記 3:14）
- 聖霊：「7つの霊」（イザヤ 11：2-3、ゼカリヤ 1：11）
- 御子：「イエスキリスト」
 - (1) 予言者（「忠実な証人」）
 - (2) 祭司（「私たちの罪から私たちを洗って下さった」「死人の中の長子」）
 - (3) 王（地上の王たちの支配者）

❖ ヨハネは彼の挨拶をイエス様の働きを思い出しつつ閉じています。彼は私たちが愛され、贖われ、ご自身とともに王と支配者となして下さいました。

C 黙示録の要旨：再臨 黙示録 1:7-8

- ❖ イエスさまは雲にのって来られます。（マタイ 24：30）私たちは再臨のとき蘇る者達と生きてままだ迎える者達として 彼が来られるのを見ます（ダニエル 12：2）。彼を刺した者たちは彼のために嘆く（ゼカリヤ 12：10）。
- ❖ イエス様の再臨は黙示録の隅々に常に言及されています。彼は彼を待ち望む者達に自由をもたらし、彼を侮る者達に 裁きをもたらしめます。